

「綿の収穫に(福島県) 広野町に行きました。一つの実からたくさん綿が出てきてびっくりました。すごくいっぱい採れてよかったです。洋服や手ぬぐいになるのが楽しみです」

小四の娘・あゆなの感想です。八日、JKSKのボランティアバスに娘と参加しました。写真。「いわきおてんとSUN企業組合」と「NPO法人ザ・ピープル」が共催する、広野町でのオーガニックコットンの収穫祭でした。

以前より震災や福島のことを子どもに伝えたいと思っていました。しかし、何をどう伝えてよい

ボランティアバス参加者 小倉千春さん(左)



## 東北復興日記

115

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

# 震災子どもに伝えたい

か分からず、私自身よく知らないということもあり、子どもと一緒に学ぼうと、ボランティアに参加しました。

娘は綿の収穫を楽しんでいましたが、この綿がどうなるのか、なぜこのプロジェクトを行っているのか、子どもなりに感じとってくれたのではないかと思います。

広野町の皆さんとの交流会では、小学校の先生からまだ不安の中で授業を行っているのと同じように、以下は、娘の感想です。

「広野町の小学校の先生から話を聞きました。スクールバスで通って、道くさまできないと聞き「えー」と思いました。

「悲しい」「遊びたい」そんな気持ちをもっていらっしゃると思いました」

私はスクールバスでいいなあと思いましたが、昼休みがないと言っていました。二時半のバスに間に合うようにしているからです。すごく「たいへん」「つらい」のかなあ

「楽しい生活が送れるようにするために、私ができることは一体何なのでしよう。いろいろなことを考えさせられるボランティアでした。」

「おぼあちやんの話では、遊ぶ場所もないと言っていました。私が住む埼玉とは全然違っていました。みんなそう

「楽しい生活が送れるようにするために、私ができることは一体何なのでしよう。いろいろなことを考えさせられるボランティアでした。」